第２９回原子力安全文化有識者会議での
ご意見･ご提言への対応状況

2023年10月23日
中国電力株式会社

原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応　（1／4）

■ 前回の有識者会議でいただいた意見・提言については、以下のとおり対応している。

【お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大に関するもの】

意見・提言	対応状況
■ 参加者の感想に「感謝されることへの喜びを感じる」とあり、このような感謝経験を得る機会が日常の中で設けられていることは、心身の健康にもつながる良い取組みである。	■ 発電所員の大半は、日常業務の中で、地域の皆さまと関わることが少ない状況にあります。地域の皆さまの声をお聞きする機会をつくり、「地域とのかかわり」「個々の業務の重要性」等についての認識向上に引き続き務めていきたいと考えています。 ■ また、発電所内においては、管理職が所属員に対し積極的に「ほめる」ことで、感謝経験を得る機会を増やしています。
■ 清掃活動や社会貢献活動等については、中国電力の社員だけで行うのではなく、地元の方に声をかけながら一緒に行えば、より効果が高まるのではないか。	■ これまでは新型コロナウイルス感染症予防の観点から活動を縮小していましたが、今後は、地元の意向等を踏まえながら、地域の皆さまとともに活動していく機会を増やしていきたいと考えています。

原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応　（2／4）

【業務運営、原子力安全文化醸成に関するもの】

意見・提言	対応状況
■ 2号機の再稼働が目前となった大事な時期なので、気を緩めることなく緊張感を持って業務を行ってほしい。また、上司もきめ細かなサポートをしてほしい。	■ 2号機の再稼働に向けては、最後まで気を引き締めて取り組んでいきます。 ■ 今後実施する役員と発電所員との意見交換において、「再稼働を迎えるにあたっての心構えや課題」等をテーマに選定して実施するなど、気を緩めずに業務を進めることを徹底します。 ■ また、いま一度、「地域の皆さまのご理解あってこその原子力発電所」との認識に立ち返り、発電所一丸となって再稼働に向けた対応および安全文化醸成活動を実施していきます。 ■ 一方で、役員と発電所員の意見交換等の活動を通じて、過度の重圧による士気の低下を防ぐようなフォローについても継続します。
■ 国の原子力政策が大きく転換し、原子力にとって追い風の状況にあるが、一方で「たがが緩む」という状態が生まれる可能性がある。こういう時期だからこそ、初心に帰るような意識を更に持って業務運営にあたってほしい。	
■ 原子力安全文化というもの、そして安全に対して「これでいい」ということはないので、下りのエスカレーターを昇っているような気持ちで、気を緩めずに取り組んでほしい。	

発電所運転員の力量の維持向上

- 国内で運転中の大飯発電所（PWR型）実機体感研修の派遣

（写真：大飯発電所にて実機体感研修の様子）
　主タービンが回転している現場で軸受の聴診、機器から発する温度、匂い、音を肌で感じる研修を行っています。

- 当社の新小野田火力発電所へ若年層を派遣

- 自社シミュレータを活用した訓練
- 発電部門OBによる若年者中心の技術伝承

　経験と技術力が豊富なOBの力も借り、運転経験のない運転員へ過去の運転経験や知識を基に運転操作にかかわる助言、運転シミュレータ訓練棟等を活用した技術伝承を行っています。

原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応　（3／4）

【原子力安全文化醸成に向けた取り組みに関するもの】

意見・提言	対応状況
■ 今は「変化にいかに対応するか」という経営が一番求められる。「変化に対応する」という意味でリスクとなるのは、コンプライアンスや安全に関する問題であり、いかにリスクに対して敏感になるかが重要である。	■ ご指摘のとおり、「変化への対応」は業務運営に必要不可欠なものです。 ■ 発電所においてもリスクマネジメントを踏まえた業務運営を行っておりますが、変化に対応するため変更した業務や設備が、コンプライアンスや原子力安全に対するリスクとならないか、状態報告（CR）等を通じて、立ち止まって疑問視・問題視する姿勢を定着させるよう、一層の安全文化醸成を図ります。
■ 次代を担う世代が自律的に安全文化に取り組んでいかないことには、上の世代があれこれ教訓を伝えていっても、決して腹落ちすることはない。「若い世代が、自分たちと同世代の人と共感しながら動いていく」という水平構造的な取組みをどこまで作り出せるかということがキーポイントになる。	■ 若い世代に対する取組みについては、垂直構造的なものだけでなく、水平構造的なものも含めた両面のアプローチが必要と考えます。 ■ 今後も若い世代同士が切磋琢磨しながら、上からの一方的な押し付けにならないよう、例年実施している安全文化講演会において、「心理的安全性」の話題に触れもらうなどの工夫をしつつ、取組み・活動を進めていきます。

原子力安全文化有識者委員からの意見・提言への対応　（4／4）

【原子力安全文化醸成に向けた取り組みに関するもの】

意見・提言	対応状況
■ 社員は様々なストレスに晒されていると思うが、逆境を克服して成長に変えるような「しなやかな折れない心」や「レジリエンス」を育むような教育や講演会などの実施も必要ではないか。	■ 原子力を取り巻く情勢を反映して、社員の受けるストレスは過去と比べ高まっている可能性があることから、「逆境からしなやかに立ち直り成長する」ための気付きや一助となる情報を提供できるよう検討しているところです。

【その他ご意見】

意見
《島根原子力発電所3号機の人工リーフ併用防波護岸による藻場造成を活用したJブルークレジットの認証について》 ■ ブルーカーボンの取組みは非常に前向きな内容であり、これをもっと推し進めて全国各地の原子力発電所に広めることができれば、原子力に対する誤解や偏見といったものが少しでも解消すると思うので、ぜひとも大いに取り組んでほしい。